

2人の証人



「希望に突き動かされて」の序章





ゼカリヤ書9:14(新共同訳)

主は彼らの前に現れ／その矢は稲光のように飛ぶ。
主なる神は角笛を響き渡らせ／南からの暴風と共に進まれる。

ゼカリヤ書9:14(聖書協会共同訳)

主は彼らの上に現れ／その矢は稲妻のように飛ぶ。
主なる神は角笛を吹き鳴らし／南からの暴風と共に進まれる。

Zec 9:14(KJB)

And the LORD shall be seen over them,
and his arrow shall go forth as the lightning:
and the Lord GOD shall blow the trumpet,
and shall go with whirlwinds of the south.

סַעַר

サ・アール : storm(-y)、whirlwindつむじ風、tempest嵐

ゼカリヤ書9:14(口語訳)

その時、主は彼らの上に現れて、その矢をいなずまのように射られる。主なる神はラッパを吹きならし、南のつむじ風に乗って出てこられる。

第五の幻(ゼカリヤ書4:11~14)

わたしは言葉をついで御使いに尋ねた。

「燭台の右と左にある、これら**二本のオリーブの木**は何ですか。」

わたしは重ねて彼に尋ねた。

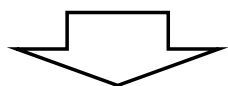
「その二本のオリーブの木の枝先は何ですか。それは**二本の金の管**によって、そこから油を注ぎ出しています。」

彼がわたしに、「これが何か分からないのか」と言ったので、

わたしは「主よ、分かりません」と答えると、

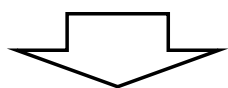
彼は、「これは全地の主の御前に立つ、

二人の油注がれた人たちである」と言った。

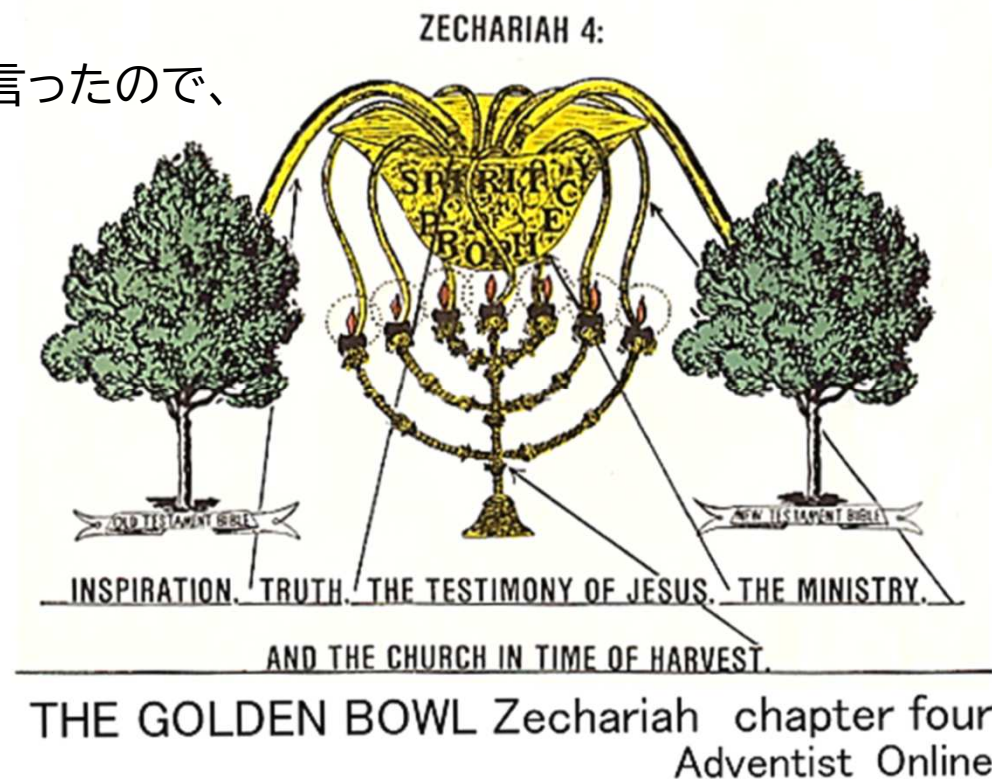


神の光と真理をこの世に伝えている

旧約聖書と新約聖書



黙示録11章



	タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数 : 3 / 聖句等の総数 33250 (二人の証人)3個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙 : 二人の証人]
S	ヨハネの黙示録	11:3 わたしは、自分の二人の証人に粗布をまとわせ、千二百六十日の間、預言させよう。」	
S	ヨハネの黙示録	11:4 この二人の証人とは、地上の主の御前に立つ二本のオリーブの木、また二つの燭台である。	
S	ヨハネの黙示録	11:8 彼らの死体は、たとえばソドムとかエジプトとか呼ばれる大きな都の大通りに取り残される。この二人の証人の主も、その都で十字架につけられたのである。	

神の光と真理をこの世に伝えている **旧約聖書と新約聖書**

二人の証人という考えは、何かが正しいことを立証するのに最低 二人の証人を必要としたユダヤ人の法制度から来ています(ヨハ 8:17)。二人の証人は(旧新両約)聖書を象徴しています。この二つは分けることができません。神の民は、この世に聖書全体のメッセージを(「神の御計画をすべて」[使徒 20:27])宣べ伝えるために召されています。

この証人たちは粗布をまとって、預言期間1260日(年)の間(西暦538年~1798年)、預言をしているように描かれています。粗布は喪服であり(創37:34)、それは、聖書の真理が埋められ、人間の言い伝え(伝統)によって覆われる困難な時代を指し示しています。

一時期、二時期、半時期／四十二か月／千二百六十日（＝3年半＝12か月×3.5年×30日／月＝1260日）

☞ダニエル書7:25

彼はいと高き方に敵対して語り／いと高き方の聖者らを悩ます。彼は時と法を変えようとたくらむ。聖者らは彼の手に渡され／一時期、二時期、半時期がたつ。

☞ヨハネの黙示録11:2

しかし、神殿の外の庭はそのままにしておけ。測ってはいけない。そこは異邦人に与えられたからである。彼らは、四十二か月の間、この聖なる都を踏みにじるであろう。

☞ヨハネの黙示録11:3

わたしは、自分の二人の証人に粗布をまとわせ、千二百六十日の間、預言させよう。」

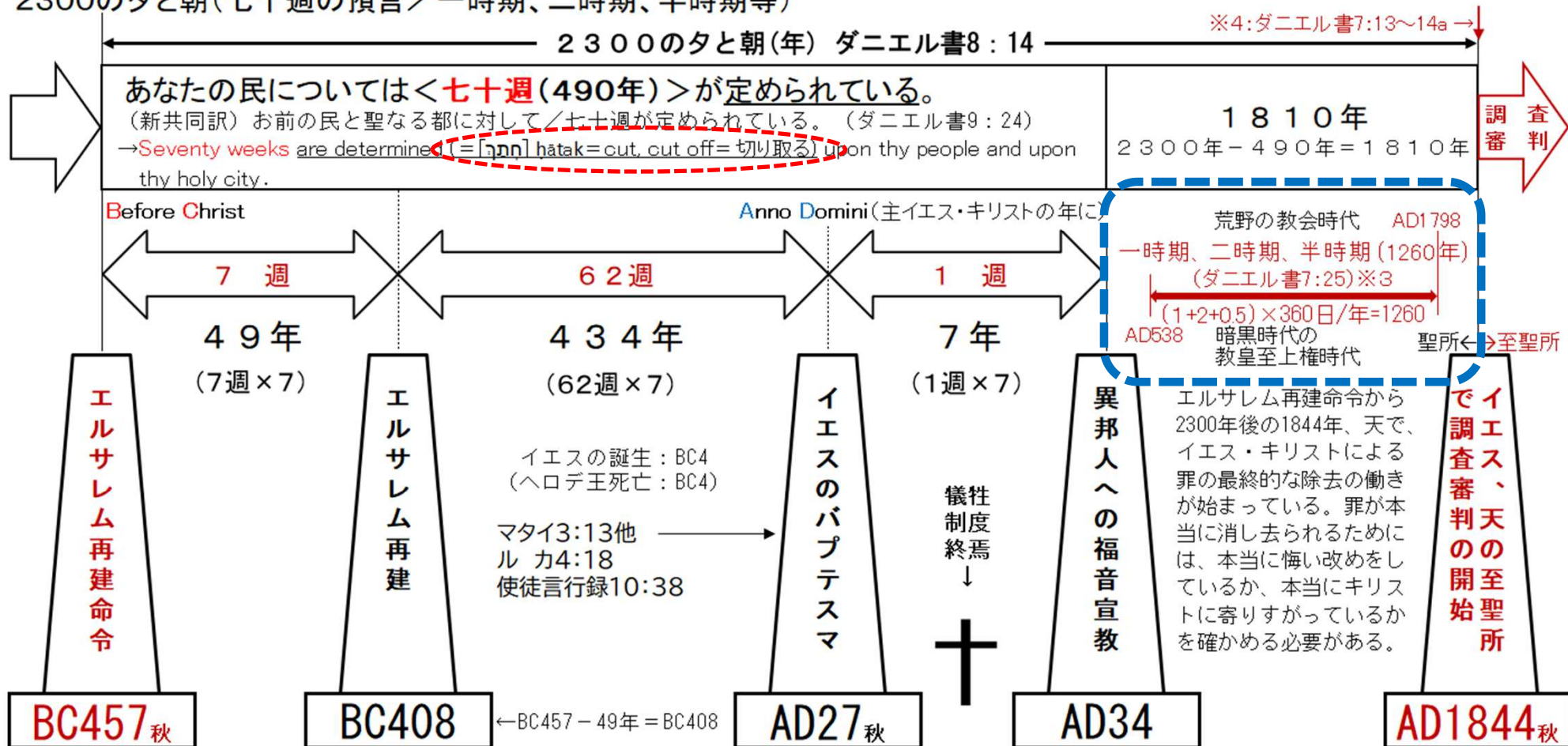
☞ヨハネの黙示録12:6

女は荒れ野へ逃げ込んだ。そこには、この女が千二百六十日の間養われるように、神の用意された場所があった。

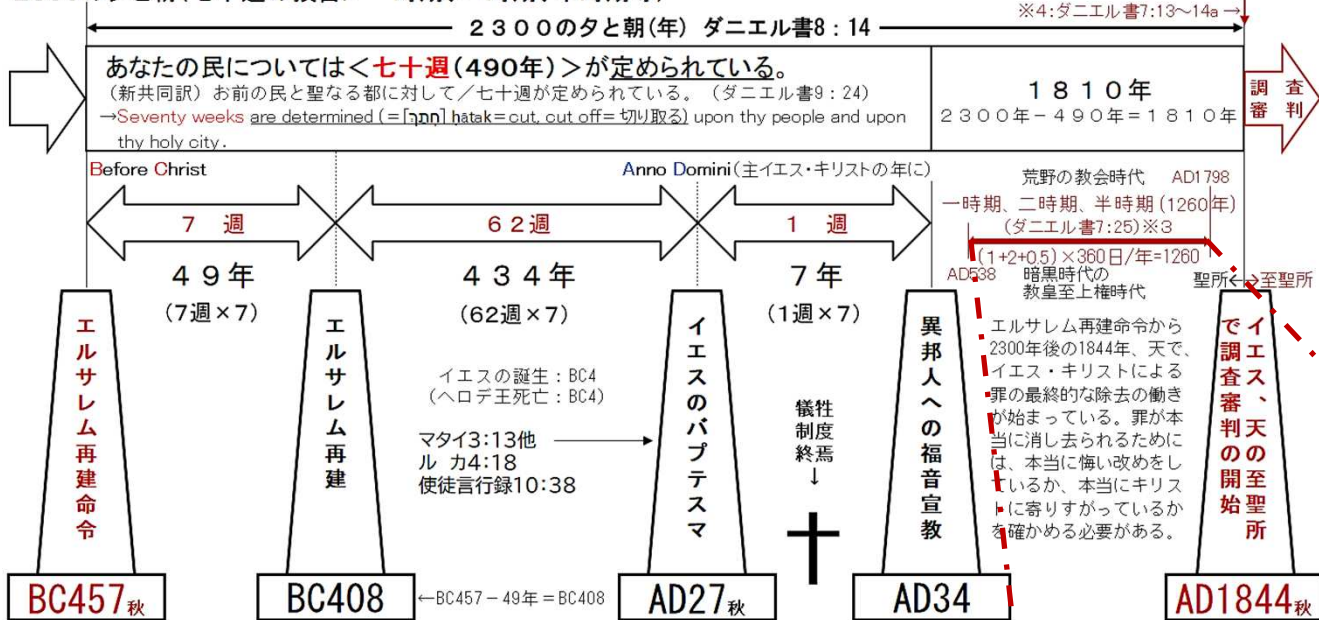
☞ヨハネの黙示録13:5

この獣にはまた、大言と冒瀆の言葉を吐く口が与えられ、四十二か月の間、活動する権威が与えられた。

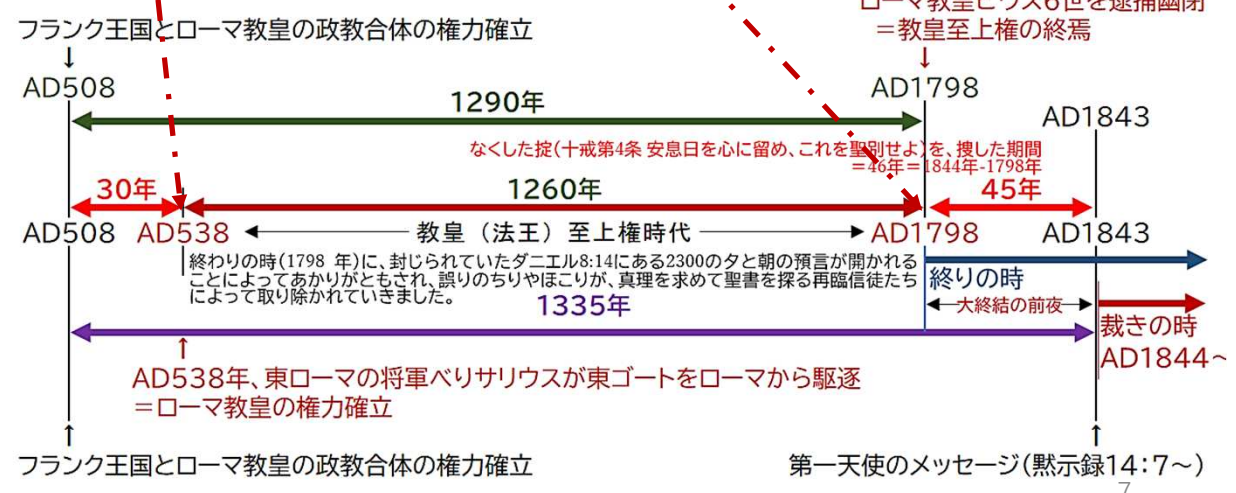
2300の夕と朝(七十週の預言／一時期、二時期、半時期等)

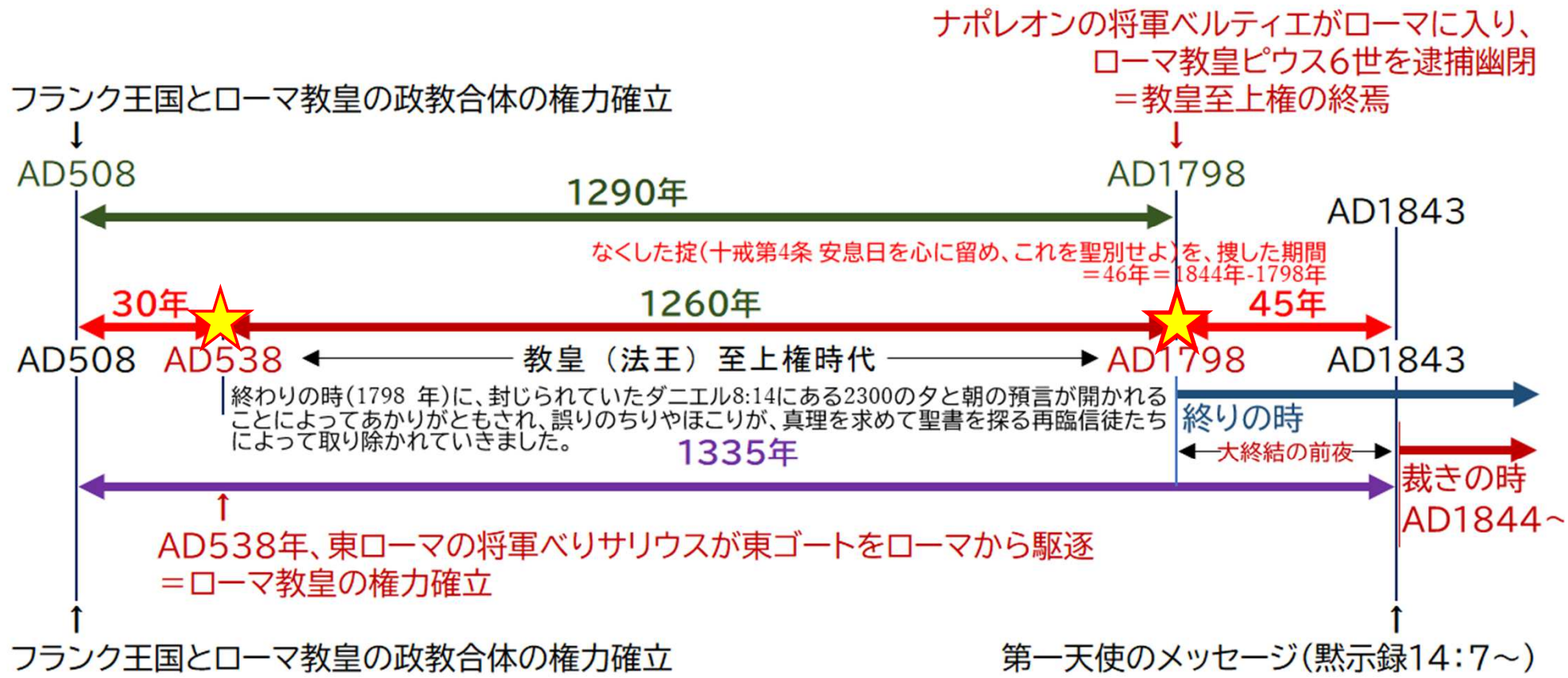


2300の夕と朝(七十週の預言ノ一時期、二時期、半時期等)



<エルサレム再建命令>
 エルサレム復興と再建についての御言葉(命令:口語訳)が出されてから油注がれた君の到来まで七週あり、また、六十二週あって危機のうちに広場と堀は再建される(ダニエル書9:25)。
 ペルシアの王アルタクセルクセス一世の治世(在位:BC465~424)の第七年(第一の月:3・4月)=BC457に、律法学者エズラをエルサレムに向かわせ、命令を出した(エズラ7:7~26)。
 →同年第五の月の一日にエルサレムに到着した(エズラ記7:9)。





異教ローマ帝国崩壊

ローマ教皇至上権の確立

政治と宗教の融合＝小さな角の活動のスタート（異教ローマ帝国の崩壊）

東ローマ帝国、ユスティニアヌス皇帝の軍事的な協力によって、ローマとイタリアを掌握し、アリウス主義（アリウス派：キリストの神性を父なる神よりも下位に置くキリスト従属説⇔アタナシウス派）の東ゴート（東ローマ帝国の皇帝ゼノンとの同盟により、西ローマ皇帝の廃止後、イタリアのほぼ全域を支配下においた、アリウス派）を撃退し、ローマの司教に信仰の擁護者としての役割を与え、第59代ローマ教皇ウィギリウスはついに実質的に全世界を治める権力の座に上り詰める権力を得、世界の頭になった。

→①ヘルリー／ヘルライを493年、②北アフリカのヴァンダルを534年、③イタリアの東ゴート（オストロゴス）を538年に滅ぼした（ダニエル書7：20）。

→東ローマ帝国の将軍フラウィウス・ベリサリウスは、AD534年にヴァンダルを完全占領し、その帰りにアリウス派教徒であり、ローマを掌握していた東ゴート族を攻撃、536年12月9日にローマを占領、東ゴート族を追い出した。その後も、東ゴート族は侵入を続けていたが、ついにAD538年8月中旬完全追放した。

→暗黒時代の教皇至上権時代：1260年間＝538年から1798年まで、中世の教会は、激しい迫害を繰り返し、大きな影響力を及ぼした。



★538年 教皇至上権の スタート

日本では第28代宣化天皇3年百濟の使者が欽明天皇に仏像などを献上し、仏教が伝来する。仏教を保護する蘇我氏と、神道を擁護する物部氏の対立が深まる。

★ 1517年	ルター「95か条の提題」発表
1549年	ザビエル、鹿児島に上陸
1611年	KING JAMES BIBLE 欽定訳聖書完成
1614年	家康、「伴天連禁教令」発令
1620年	イギリスのピューリタン（清教徒）、メイフラワー号に乗りアメリカに移住。
1776年 安永5年	アメリカ独立宣言：イギリス（グレートブリテン王国）によって統治されていた北米13植民地が独立したことを宣言。同年7月4日、大陸会議によってフィラデルフィアで採択された。
1784年	メソジスト監督教会が組織化される。
★ 1789年 寛政1年	フランス革命：フランス王国で1789年7月14日から1795年8月22日にかけて起きた革命で、フランス人権宣言（人間の自由・平等、主権在民等）を採択等。 →国家主導の無神論的宗教「 <u>理性崇拝</u> 」※1が行われる。 ※1：フランス革命が進行し、ジャコバン派独裁政権が成立した時期の1793年に、左派のエベールによって進められた神に代わり人間の「理性」を崇拝しようという非キリスト教化運動。



公衆の前で聖書が焼かれた。ある時、「民間博物館協会」の人々が、「理性万歳！」と叫びながら市の公会堂に入った。棒の先には、半焼けになった何冊かの本を突き刺していたが、その中には、祈祷書、ミサ典書、旧新約聖書などがあった。それらは「人類をして犯さしめたあらゆる愚行を、大いなる火でもって償ったのである」と会長は言った（聖書とフランス革命 各時代の対決 第15章）。

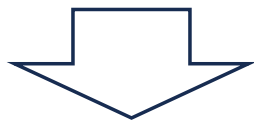
1793年	11月10日、フランス全土で「 理性の祭典 」開催。聖書が燃やされ、神の存在が否定される。→1793年11月26日、 宗教廃止令 ～97年： 無神論 がフランスで絶頂期を迎える。
1797年	6月17日、フランス政府が 宗教制限法 を撤廃する。
★1798年 教皇至上権の終焉	2/10 ナポレオンの将軍（元帥）ルイ・アレクサンドル・ベルティエがローマに入り、ローマ教皇ピウス6世を逮捕幽閉。 →教皇領全体がローマ共和国の樹立を宣言したフランス軍によって侵略され、ピウスは1799年にフランスで幽閉中に没、AD538年に始まった教皇至上権主義の終焉となった。 →小さな角（ダニエル書7：8、8：9）の1260年（AD538～1798年）におよぶ活動期間の終焉→ 教皇至上権の終焉 （黙示録13：3前半） →この時、教皇が受けた痛手は深刻でしたが、黙示録13：3～4、12によれば、その致命的な傷は徐々に癒され、世界は教皇を含めた、この勢力から、更に多くのことを聞くことになって行くと思われます。 →ヨハネの黙示録13：3～4 この獣の頭の一つが傷つけられて、死んだと思われたが、この致命的な傷も治ってしまった。そこで、全地は驚いてこの獣に服従した。竜が自分の権威をこの獣に与えたので、人々は竜を拝んだ。人々はまた、この獣をも拝んでこう言った。「だれが、この獣と肩を並べることができようか。だれが、この獣と戦うことができようか。」 →ヨハネの黙示録13：12 この獣は、先の獣が持っていたすべての権力をその獣の前で振るい、地とそこに住む人々に、致命的な傷が治ったあの先の獣を拝ませた。
	1804年
1831年	ウィリアム・ミラー、 第一天使の使命の宣教開始 。

預言期間 1260 日(年)の最後にこの二人に起こったこと

二人の証人(預言者)を殺す獣が、まさにサタンの住みかから上って来ます。この二人の証人の殺害は、**歴史的に見れば、フランス革命の諸事件と関連して無神論者が聖書を攻撃したことや、宗教を廃止したことに当てはまります。**

フランスで構築されたその反宗教的体制は、ソドムの道徳的廃退、エジプトの無神論的傲慢、エルサレムの反抗心を有していました。

エルサレムでイエスに起こったことが、今やこの**反宗教的体制によって聖書に対して起きました。**



証人の復活は、フランス革命後における聖書に対する興味が大いに復活したことを指し示しています。

結果的に、それが聖書の真理の回復を伴う第二次再臨待望運動を興し、聖書協会の設立と聖書の世界的な配布につながりました。

★各時代の争闘 15章 聖書とフランス革命

真理の勝利

敵の攻撃にもかかわらず、地上における神の業は、輝かしい山場を迎えます。福音は、「あらゆる国民、種族、言葉の違う民、民族」(黙14:6)に宣べ伝えられるでしょう。キリストとサタンの大争闘は、キリストが陰府の力を完全に打ち破られることで終わります。神の王国は悪に勝利し、罪は宇宙から永遠に根絶されるのです。黙示録11章は、フランス革命を通してキリスト教信仰を破壊し、神への信仰を根絶しようとするサタンの試みから始まりますが、悪の支配と勢力に対する神の王国の勝利で終わります。この章は、キリストの働きと真理のために激しい試練を経験するすべての人に励ましを与えます。